



United church of Christ in japan
Kure Heian Church

シャローム

いつも、あらゆることについて、わたしたちの主イエス・キリストの名により、
父である神に感謝しなさい。(エフェソ5:20)

イエスさまは神の御許から見失われていた者が、神の御許に立ち帰ることを、神がどれほど喜ばれるかを語られました。そして悔い改めとは見失われていた者が帰るべきところに帰ってくることでお教えになられ、父と二人の息子の譬えを語られます。

弟息子は父から分けてもらった財産を持って遠い国へ行き、そこで放蕩の限りを尽くし一文無しになってしまいます。兄息子の方は、父のもとで毎日一生懸命働いていました。

父は二人とも愛しています。そんな父は弟息子が帰ってくるのを待っていました。待つとはいつもその人のことを思っていることです。だから弟息子が一文無しになって戻って来た時、父はすぐにそれと気づき、憐れみをもって走り寄り、弟息子を家に迎え入れたのでした。

しかし、そのことを知った兄息子はすねて、怒って、家に入って来ようとしません。父は兄息子のことも待っています。だから父は憐れみをもって家の外に出て、兄息子の許へと歩み寄り語りかけたのでした。

父は弟息子に走り寄り、兄息子に歩み寄ってくださいます。弟息子は自分のことしか考えていません。父に受け入れてもらえて良かったと喜んでいただけです。父がどんな思いで待ち、どれだけの犠牲を払い、どれほど喜んでるか分かっているのでしょうか。

兄息子は他人と比べてばかりです。

えこひいきだ、何だか自分が大切にされていないかのように思え不平が出てきます。父がどんなに愛してくれて

いるか、どれだけ多くの恵みを日々与えているか、共にいることをどれほど喜んでるか分かっているのでしょうか。

イエスさまはこの譬えを次のように閉じます。「だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。」(32節) これはわたしたちへの呼びかけです。神は悔い改める(人が帰るべき神の御許へと帰ってくる)あなたのことを喜ばれるのです。神は悔い改める者のことをいっしょに喜ぼうと呼びかけておられるのです。アーメン



主日礼拝説教より
「帰るべきところを知る」
ルカによる福音書第15章11~32節
牧師 小林克哉